# 第２学年　英語科学習指導案

日　時：平成２７年９月８日（火）５校時
場　所：大船渡市立綾里中学校
学　級：２年Ａ組
生　徒：男子 10 名 女子 10 名計 20 名
授業者：櫛　引　かおり

１　単元名　Program5 Gulliver's Travel（開隆堂 SUNSHINE ENGLISH COURSE 2）

２　単元について

（１）教材観

　本単元は、マイクが読んでいる『ガリバー旅行記』が話題となっている。本を見ながら内容についてマイクが説明をしたり、ガリバーが訪れた町についてウッド先生が説明をしたりする場面がある。「観音崎のガリバー祭り」「札幌雪まつり」の紹介等にならって、身近な観光名所やお祭りについてスピーチ活動を行うという内容になっている。

　文法事項としては、There is /are ～. を扱う。人やものの存在「～がある、～がいる」という表現から会話が広がることで運用させたい。when ～、if ～も扱う。今まで学習してきた表現と合わせて、スピーチに挑戦させたい。

　学習指導要領の話すこと(オ)に「与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること」とある。単元のゴールは、「綾里の見どころを ALT に紹介しよう」である。地域に関する様子や事実を分かりやすく伝える力を養うのに適した題材であると考える。

（２）生徒観

　生徒はこれまで、ウェビングマップや写真、イラストを用いながら聞いている人に話す、という方法で、「話すこと」の活動に取り組んできた。自己紹介に始まり、大好きな絵本の紹介、家族の紹介、好きなキャラクターの紹介等、生徒たちは意欲的に取り組んできた。しっかりとステップを踏んで、できることを積み重ねて、ゴールの活動につなげていき、安心感をもたせてスピーチ等の発表活動ができるよう指導してきた。「話すこと」を含み４技能についてＮＲＴ等の諸調査から学習の成果は見ることができる。

　しかしながら、生徒は自分が話したい内容について発表するという段階でとどまっており、話した内容やテーマについて簡単な質問をしたり答えたりする、ということについては十分とは言えない。

　本単元の指導では、相手意識をもち、質問に応じながら聞いている人に分かりやすい説明をするという力を付けたいと考えている。

**※以下、中１CAN-DO テストの結果が示されている。**
**（県と自校を比較した数値データが含まれているため割愛）**

（３）指導観

　本校英語科の目標は「英語を学ぶことを通して、海外のことのみならず日本のことに興味や関心をもち、意欲的に学習に取り組む生徒。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」である。生徒が日本や地元のよさを言葉で表現できるような状況を設定することで、「相手を意識して発話する」コミュニケーション能力を育成する授業を目指す。外国人に地元である「綾里の見どころを英語で紹介しよう」というタスクの設定により、生徒の学習や活動に意味を持たせながら言語活動に取り組ませたい。

　大船渡市に今年度からきているＡＬＴの存在を活用し、単元の学習内容を積み重ねることで、最初はうまくできなかったことができるように指導していきたい。

３　単元の目標

（１） 綾里の見どころについて紹介する。※〔CAN-DO リストとの関連　話すこと（２）〕
（２） 間違いを恐れずに、学習した表現を使い、相手に分かりやすく話す。

（３） There is / are ～. を用いた文の構造を理解する。
（４） 接続詞 when ～ / if ～を用いた文の構造を理解する。

４　単元の評価規準

| ア　ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝへの関心･意欲･態度 | イ 外国語表現の能力 | ウ　外国語理解の能力 | エ　言語や文化についての知識・理解 |
|---|---|---|---|
| 間違いを恐れずに、学習した表現を使い、相手に分かりやすく話している。 | 綾里の見どころについて、既習事項を用いて紹介することができる。 | | ① There is / are ～. を用いた文の構造を理解している。<br>② 接続詞 when ～ / if ～を用いた文の構造を理解している。 |

５　指導と評価の計画（全８時間）

| 時間 | ○ねらい・学習活動 | 単元の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | **○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。**<br>・warm-up として身近にあるものについて対話する<br>・学習チェックシートで本単元の学習内容を確認する。 | | |
| | **○There is / are ～. を用いた文の構造を理解する。**<br>・There is / are ～. を用いた文の構造を知る。 | エ① | 後日ペーパーテスト |
| 2 | **○There is / are ～. を用いた文の構造を理解する。**<br>・本文(p.４７)の内容理解と、本文を通して There is / are ～.の使い方を理解する。<br>・本文から身近にあるものを説明する表現を探す。<br>・There is / are ～.を使い、綾里について紹介する。 | ア | 活動の観察 |
| 3 | **○接続詞 when を用いた文の構造を理解する。**<br>・接続詞 when を用いた文の構造を知る。 | エ② | 後日ペーパーテスト |
| 4 | **○接続詞 when を用いた文の構造を理解する。**<br>・本文(p.４９)の内容理解と、本文を通して when の使い方を理解する。<br>・接続詞 when を使い、綾里について紹介する。 | ア | 活動の観察 |
| 5 | **○接続詞 if を用いた文の構造を理解する。**<br>・接続詞 if を用いた文の構造を知る。<br>・本文の内容理解と、本文を通して if の使い方を理解する。<br>・接続詞 if を使い、綾里について紹介する。 | エ② | 後日ペーパーテスト |
| 6 | **○綾里にあるものを説明する時の表現を理解する。**<br>・教科書で使われている表現を探す。<br>・つけ足せる表現を探す。<br>・ペアで綾里について説明する練習をする。 | ア | 活動の観察 |
| 7<br>(本時) | **○綾里について、写真等を用いて説明する練習をする。**<br>・ペアで綾里について説明する練習をする。<br>・外国人に説明する場面を想定して、場所や相手を変えながら練習する。 | イ | 活動の観察 |
| 8 | **○綾里について写真等を用いて説明する。**<br>・発表 | イ | パフォーマンステスト<br>(VTR 撮影) |
| 後日 | 〈ペーパーテスト〉<br>◇身近にあるものを書いて紹介する問題<br>◇場面や条件を与えて適当な表現を書く問題 | エ①<br>エ② | ペーパーテスト<br>ペーパーテスト |

６　本時の指導

（１）本時の目標と評価規準

| 観点 | 目標 | A<br>「十分満足できる」 | B<br>「おおむね満足できる | C<br>「具体的な対応・手立て」 |
|---|---|---|---|---|
| 外国語表現の能力 | 綾里の見どころについて、既習事項を用いて紹介することができる。 | 相手の質問に答えながら、There is/are～、when～、if～を使って、わかりやすく話すことができる。 | There is/are ～、when～、if～を使って話すことができる。 | 教科書等で表現方法について再確認させる。 |

（２）本時の展開

| 段階<br>時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br><br>１０分 | **１　あいさつ、**　Q&A<br><br>**２　学習課題の提示**　※学習チェックシートの確認<br><br>『綾里の見どころ』を紹介することができる。<br>～Let’s talk about Ryori!～ | ・ペアで協力し合って活動を行う<br><br>・学習内容、活動の目的をとらえる。 |
| 展開<br><br>３５分 | ３　Step1<br>・学習チェックシートの裏にある写真を見ながら、綾里にある見どころについて話す。（ペア）<br>その際、外国人役は質問し、日本人役は答える形で会話する。 | ・Interactionをしながら、既習の表現を使って対話をする。 |
| | ４　Step2<br>・カードを引き、他の場所についても言えるように練習する。<br><br>Ex.<br>**There is** a famous station in Ryori.<br>It’s Koishihama Station. **When** you go there, you can see a lot of shells.<br>**If** you go to Koishihama Station, you can eat hotate near the station.<br><br>・紹介された内容について、１つ以上質問をする。<br><br>Q: How long does it take from Ryori Station to Koishihama Station?<br>A: It takes about 5min.<br>Q: Thank you very much. | ・評価について確認する場面をもつ。<br>相手の質問に答えながら、There is/are～、when～、if～を使って、わかりやすく話すことができる。（A）<br><br>・聞き手に分かりやすく説明すること、There is / are ～、when～、if～等既習の言語材料を活用することを意識付ける。<br><br>・課題解決のために必要な表現を考え、言えるように練習する。<br><br>・ペアで向かい合い、会話をさせる。会話が終わったところで、お互いにコメントし合い、その後ローテーションしてペアを変える。<br><br>・説明する場所が固定しないように、カードを引いた場所について会話をする。 |
| 終末<br><br>５分 | **５　学習の振り返り**<br>　本時のねらいが達成できたか振り返り「学習チェックシート」に記録する。<br><br>**６　あいさつ** | ・本時の学習でできたことやできなかったこと、疑問等を自分自身でとらえる。 |